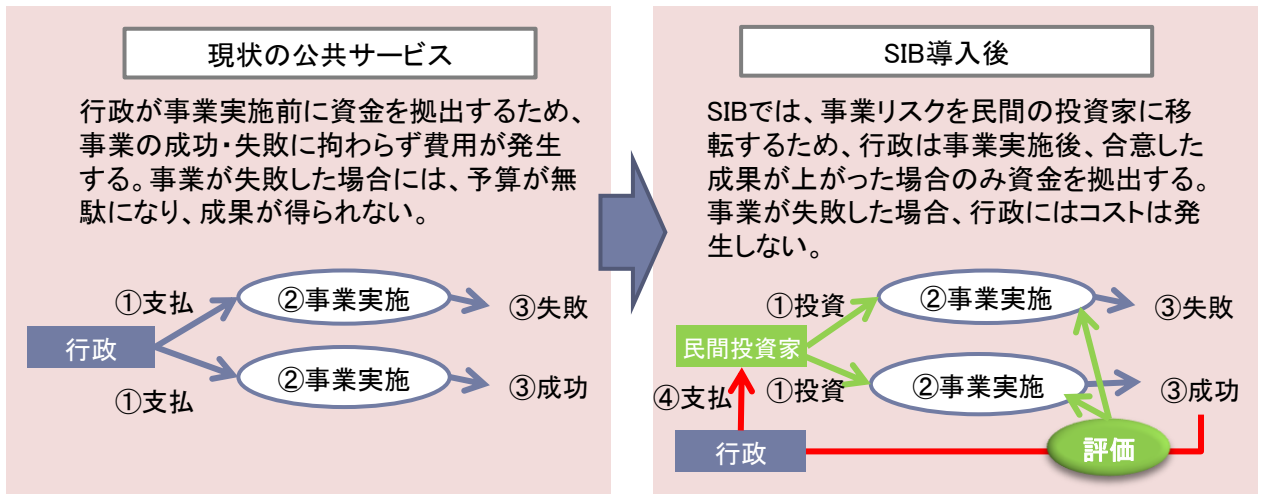


別添資料 ソーシャル・インパクト・ボンドとは

「ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)」とは？

社会的コストを低減する、行政が未だ実施していない事業を、民間投資によって行い、行政がその成果に対する対価を支払う社会的インパクト投資のモデル。事業の実施による社会的コストの削減分や納税・社会保険費支払い等の増加分が償還の原資となる。公的サービスの生産性向上や、財政負担の軽減が期待できる。

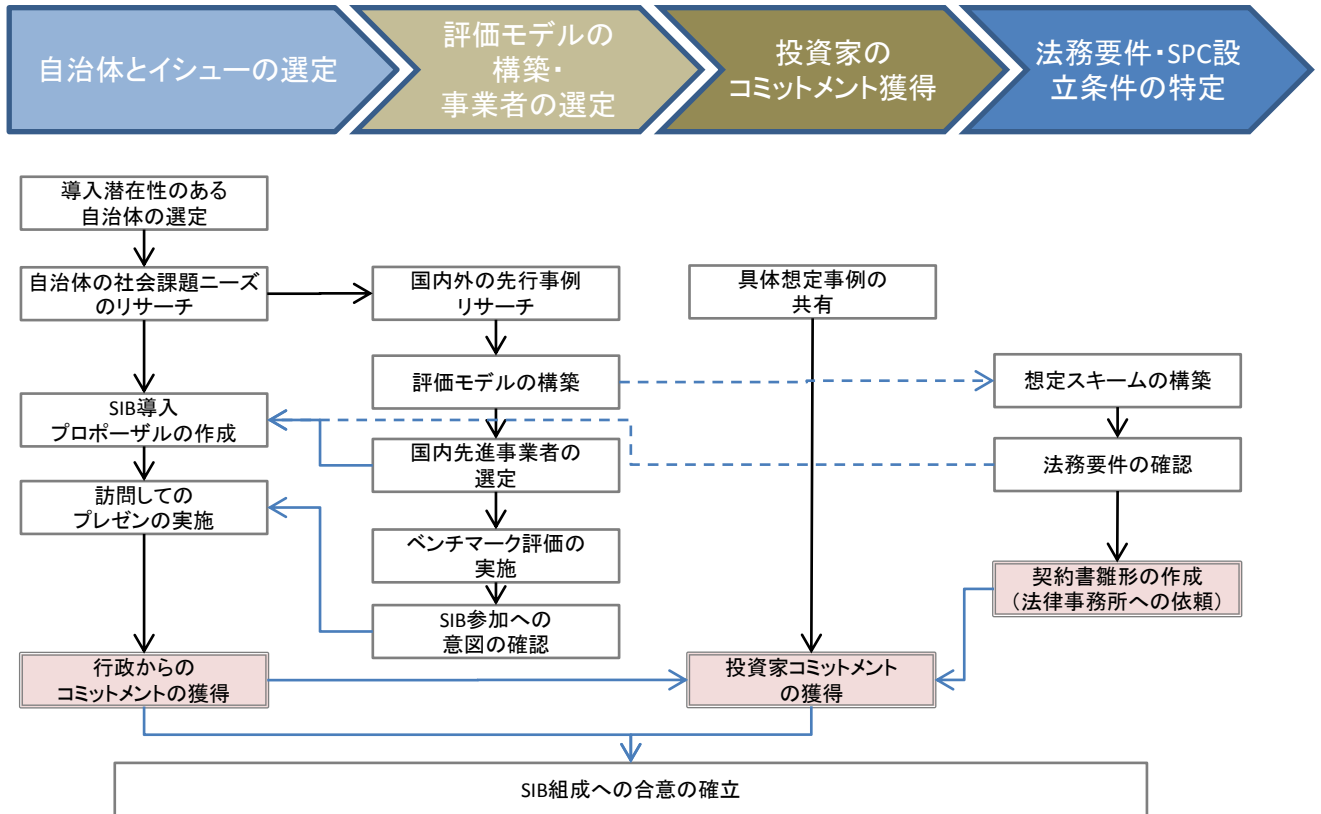
SIBの仕組み



日本でSIB導入が想定される事業領域(例)

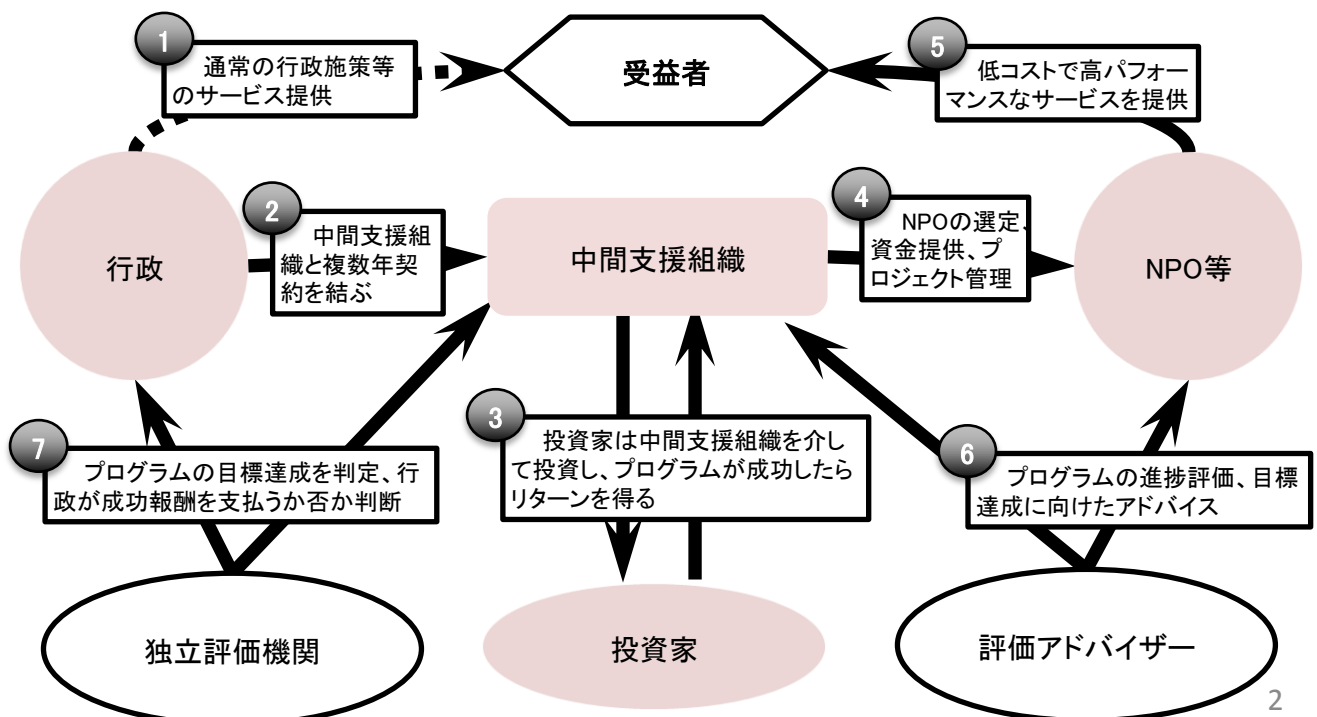
事業領域	概要	想定される評価指標
就労支援	無業状態の若者や社会的弱者(障がい者等)の就労支援を行うことで、社会的生産性の向上と社会的コスト削減を実現する	<ul style="list-style-type: none"> 就労数の増加 生活保護受給者数の減少(生活保護費の削減) 所得税等納税額の増加 社会保険料徴収の増加
高齢者医療・介護予防	高齢者を対象に健康増進、介護予防プログラムを行うことで、高齢化に伴い増加する医療費・介護保険費用を削減する	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康状態の改善 対象となる高齢者の対前年度比医療費・介護保険請求額の削減
児童擁護 養子縁組・里子里親	現在主流の児童養護施設による養育ではなく、養子縁組を促進することで、養育環境の改善と施設維持コスト等を削減する	<ul style="list-style-type: none"> 施設で養育される子どもの数の減少 措置費、維持・管理費の削減
再犯防止	受刑者の再犯を防止する為のメンタルケアや就労支援プログラムを提供することで再犯率を低下させ収監・司法コスト等を削減する	<ul style="list-style-type: none"> 受刑者の再犯率の低下

SIB実施フローとタスク



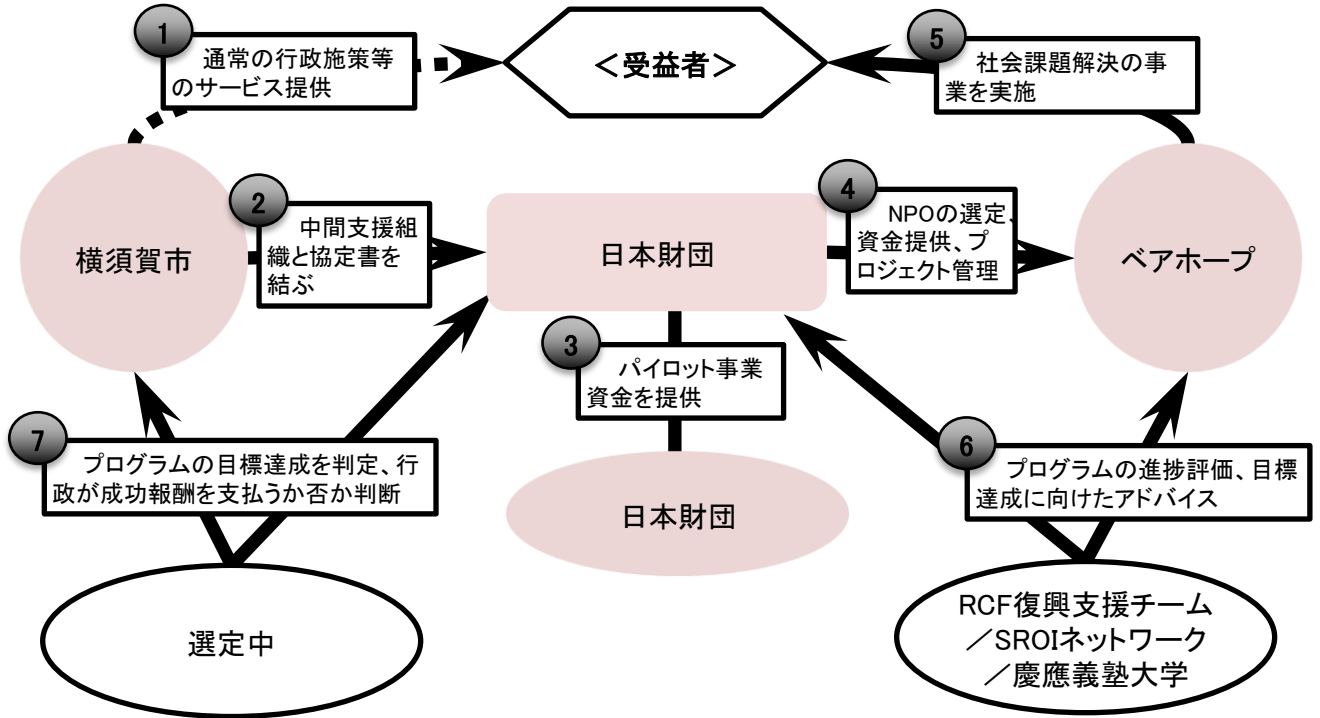
SIBの運用モデル

行政、社会的投資家、NPO等の非営利組織、評価機関等の異なるステークホルダーが連携、成果報酬での支払いを行うことで、合理的なコストでの質の高いサービス提供を実現する



横須賀市特別養子縁組推進 SIBパイロット事業の運用モデル

通常のSIB事業運用モデルとは異なり、本パイロット事業では、日本財団が資金提供をするため、プロジェクト結果に関わらずリターンは発生しない。



関係団体紹介プロフィール

特定非営利活動法人SROIネットワークジャパン

SROI (Social Return on Investment, 社会的投資収益率法) に代表される社会的インパクトの定量評価手法の研究、教育、実践の推進を通じて社会的生産性の向上をもたらし、社会課題の解決を促進することを目的に2012年に設立されたNPO法人。具体的な活動としては社会的インパクトの評価手法についての研究開発、トレーニング・セミナー等の教育プログラムの提供、事業評価についてのコンサルティング業務等。伊藤健代表理事(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教)。

ベアホープ

「どんな背景にある子どもでも、温かい家庭で愛されて育つ権利を守る」というミッションに基づき、妊娠相談、特別養子縁組推進、養育里親の支援を行っている。2014年4月に第二種社会福祉事業者に登録。特に思いがけない妊娠をした女性への丁寧なカウンセリングと、養親の研修、審査、長期的なアフターフォローに注力している。スタッフは養育里親、助産師、カウンセラー、社会福祉士で構成されている。

RCF復興支援チーム

2011年4月発足(同年9月より一般社団法人)。現在は、東北復興および社会課題解決に向けたコーディネート業務を主な活動内容とする。被災地において、資金提供等する企業・行政等と、地域の主体となる住民、自治体、企業/NPOといった多種多様なステークホルダーの間に入り、各々のニーズや利害を調整しながら多種多様なプロジェクトの企画、実行支援を行う。今後全国各地にも案件拡大予定。主要取引先は、麒麟株式会社、グーグル株式会社、日本財団、UBS証券株式会社、復興庁等。専任スタッフ58名(2015年3月現在)